

# 久慈城跡

## 岩手県指定史跡に

久慈城跡は昭和48年に久慈市指定史跡となり、久慈市を代表する史跡として保護されてきましたが、その文化的価値が認められ令和4年4月8日付けで岩手県の指定史跡に決定しました。

久慈城跡は、大川目町新町に所在する戦国時代の山城で、久慈地方の領主であった久慈氏が居城しました。

### 久慈城の歴史

古文書には、文明年間（1469〜87）に久慈備前守信実が八日館（久慈城）に居城したという記録があり、信実が居城した後は、久慈氏が代々居城したと考えられています。

天正19年（1591）、久慈直治の代に、南部家の後継ぎをめぐる南部信直と九戸政実が争った「九戸一揆」が起き、久慈直治は九戸政実につき戦いました。

九戸方は善戦しましたが、南部信直に豊臣秀吉が派遣した軍勢がつき、総勢6万とも10万ともいわれる大軍を相手に、5千人の九戸方は九戸城に籠城し攻防戦となりました。

九戸城は守りの固い要害の城で難攻不落であり、豊臣・南部方の大軍は攻めきれずにいたため、豊臣方の浅野長政は偽りの和議の策略を図りました。九戸方はこれを受け入れて開城しますが、九戸政実や久慈直治らの武将は捕らわれの身となり、栗原郡三迫（宮城県栗原市）で処刑されます。久慈氏の直系は滅亡し、久慈城も取り壊しとなりました。天正20年（1592）の古文書には「久慈山城破却」とあります。